

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ 所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢771-2

TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144

HPでカラー版が御覧になれます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

平成26年度 峡南地域教育フォーラム 開催

峡南地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所が主催する平成26年度の「峡南地域教育フォーラム」が、8月26日（火）に身延町総合文化会館において開催され、峡南地域教育推進連絡協議会関係者や地域の教職員、保護者、町関係者など137人が参加しました。今年のテーマは、「子どもの健全育成のために学校・家庭・地域でできること」、このテーマに沿って、身延町教育研修センター向学館代表、千須和繁臣氏が「地域の子は地域で育てる」と題した実践を発表しました。昭和53年4月に旧身延町で設立された身延町教育委員会内教育研修センターの活動内容の紹介、平成24年度から「教育のまちづくり」を進めていく一環として、教育委員会を中心に子どもたちの「学ぶ心」の育成を目指す「学びの向学館」に関する事業の紹介がありました。“子どもたちが、主体的に考え行動し、思いやりあふれる人間としてたくましく育てほしい”という願いのもと、学ぶ環境の整備に力を入れて様々な事業が展開されています。昨年度から夏休みを利用して実施されたのが、「イングリッシュキャンプ」です。町内の児童生徒希望者に呼びかけて、なかとみ青少年自然の里を会場に7月に小学生、8月に中学生が、いずれも1泊2日の日程で集まり、2日間「英語のみで生活する」体験プログラムを実施しました。最後に、身延町の中学校3年生対象の学習支援の取り組みの実践報告をいただきました。つづいて、茨城大学社会連携センター准教授、長谷川幸介氏による「子どもをとりまく地域の力」と題し御講演をいただきました。この御講演については次号で紹介いたします。



向学館代表 千須和繁臣 氏

平成26年度峡南地域「異校種連携セミナー」のお知らせ

今年度の異校種連携セミナー(峡南地推協・峡南教育事務所主催)は、保幼小中連携の在り方と幼児・児童の自然体験活動の重要性について考えます。内容は、昨年度研究推進指定校として成果をあげた西島小学校・西島保育所・静川保育所・定林寺立正保育園の連携実践発表と、山梨大学教育人間科学部教授 川村協平教授による、自然体験活動を通して子どもの能力を引き出し、五感・感性を育む教育実践についての御講演です。関係の方々及び異校種連携や野外教育などに関心のある方々の多くの参加をお待ちしております。

- ◆日時 平成26年11月11日(火) 受付13:00～ 開会13:30～ (終了予定16:20)
- ◆会場 身延町総合文化会館2階会議室
- ◆連絡先 峡南教育事務所地域教育支援担当 TEL 0556-22-8154
参加申込みは10月28日(火)までをお願いします。

ダメ。ぜったいダメ「危険ドラッグ」

危険ドラッグ使用による、事件や事故が多発する現在、私たちは、危険ドラッグの危険性を認識し、それらを絶対使用しない社会の実現に向けて努力していかなければなりません。夏休みが終わり、増穂商業高校では、8月26日（火）2学期始業式の登校時の校門で、警察・保健所・関係者によりチラシやティッシュ等を配付し危険ドラッグの危険性を周知しました。また、市川高校では、9月1日（月）に鵜沢警察署刑事生活安全課による危険ドラッグ使用撲滅に向けての講演会を実施しました。



☆☆連載特集『峡南地域の食材』No. 4

市川三郷町「食改さん」と「あんびん」



1 市川三郷町の自然環境

市川三郷町は、釜無川と笛吹川が合流し、富士川となる左岸に位置しています。歌舞伎文化公園、大門碑林公園、四季折々の自然が楽しめる四尾連湖や芦川溪谷、ぼたん回廊や桜の名所、花火、和紙、はんこなどの地場産業、大塚にんじんやとうもろこしの「甘々娘」に代表される農産物、そして、神明の花火など多くの誇れる資源があります。市川三郷町は、2005年（平成17年）10月1日に旧三珠町・市川大門町・六郷町が合併して誕生し、「やすらぎづくり、日本一の暮らしやすさを目指して」を基本方針に掲げています。

2 市川三郷町食生活改善推進員会「食改さん」による活動

市川三郷町食生活改善推進員会は、市川三郷町誕生後、2006年（平成18年）4月21日に旧三珠町・市川大門町・六郷町の食改を合併し発足しました。現在会員数は、3支部で合計112名です。受託事業は勿論のこと、「ヘルスメイトが『TUNAGU』（繋ぐ）パートナーシップ事業」では、昨年280件のみそ汁塩分濃度を測定し減塩の声かけ活動に取り組みました。特徴ある取り組みとして、毎年5月下旬に行われる市川三郷町子育て支援フェスティバルに協力し、手作りおやつ試食コーナーを設けています。今年は、豆腐入り白玉だんご・



平成26年度市川三郷町
食生活改善推進員会
副会長 塩島なほみ 様（右→）
副会長 小林和子 様（右中央）
会長 村松悦子 様（左中央）
副会長 望月ひろ美 様（←左）



市川三郷町食改さんによる「豆腐入り白玉だんご」づくりの様子

カラフル野菜ゼリー（各500食）を用意し、豆腐や野菜を使った簡単でヘルシーな手づくりおやつを紹介し大好評でした。また、市川三郷町の各所で行われる町民健康診断では、健診が終了した方々に高血圧予防のための「減塩みそ汁」や骨粗しょう症予防のための牛乳を使った「ミルク餅」の試食を配付し、生活習慣病予防の声かけ活動をしています。食生活改善の活動を通し、地域の健康づくりに貢献しています。

3 地域の特産品の一つ「あんびん」

「あんびん」は、市川三郷町六郷地区の食材として昔から知られ、サツマイモの粉、小麦粉、とうもろこしの粉を使った皮の3種類があります。今回は食文化の伝承をしている六郷町特産品加工組合の方々の御協力で、サツマイモの粉を使った皮の「あんびん」を紹介します。



①生地になるサツマイモの粉



②サツマイモの切片



③サツマイモの粉と切片を混ぜ生地を完成



④生地の中に餡を詰める



⑤15分程度蒸す。



⑥「あんびん」完成



六郷町特産品加工組合の方々

HPで「かけはし」カラー版が御覧になれます。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

南部町社会福祉協議会主催 小中学生ワークキャンプ

8月6日(水)南部町総合会館にて、町内小中学生を対象とした福祉教育に関するワークキャンプが開催されました。①南部町役場市川保健師による認知症サポーター講座、②身延山高校の小澤教諭および「手話コミュニケーション部」の生徒による手話教室という内容でした。今回は、53名の小中学生が自主参加しました。まず、市川保健師が用意したDVDやプレゼン資料を用いて、認知症という病気や対応のしかたについて学ぶとともに、認知症本人や介護する家族などの思いを理解することの大切さに気付かせる学習を行いました。終了後には、認知症サポーターの証である「オレンジリング」が全員に配布されました。次に、身延山高校の小澤教諭が、DVDや講話を通して、聴覚に障がいのある人への理解と思いやりのある行動の大切さについて伝えました。東日本大震災では危険を知らせる音の情報がわからずに亡くなられた方々がいたこと、耳の聞こえない方は外見ではわかりにくく誤解を受けやすいこと、手話をする際は手の動きだけでなく口の動きや顔の表情も大事であることなどを話されました。その後、小中学生は4会場に分かれ、身延山高校の生徒たちに、手話による自分の名前の表し方、曲に合わせた手話の振り付けなどを教わりました。小中学生の福祉の心を育む、充実した素晴らしい講習会でした。なお、南部町社会福祉協議会では、このワークキャンプの他にも、夏休み中に、手作りボランティア教室や中学生介護教室なども開催いたしました。身延山高校の手話コミュニケーション部では、今まで、大野山保育園・下山立正保育園・久那土保育所・原小・栄小・南部中・なんぶいきいき大学などを訪問し、手話による交流を深めたり、聴覚に障がいのある人への理解を広めたりする活動を推進しています。峡南地域の諸学校の学習活動や社会教育の事業などにおいて要請があれば、快く対応して下さるそうです。それは、様々な学校や地域の学習活動に貢献したいという思いと、手話に取り組む生徒たちの学習成果の発表の場を確保し、成長につなげたいという願いからです。お問い合わせは、身延山高校の小澤伸英教諭まで。(0556-62-3500、ozawa@min.ac.jp)



平林育成会・増穂西小PTA共催 平林地区小中高合同キャンプ

8月2日(土)～3日(日)増穂西小学校を会場に、平林地区小中高合同キャンプが行われました。増穂西小学校の児童・出身中高生、保護者、職員、平林農業小学校(農業体験)指導者、育成会担当、大須成学園関係者など、多くの参加者が集まりました。様々な体験活動をとおして生きる力や主体性を育むこと、互いの親睦を深めることが主なねらいでした。午前中は、PTAの役員さんの指導の下、子どもたちは、協力して3mの高さにもおよぶ竹ドームを作りました。一方、保護者の方たちは、半分に割った竹をつなげて、流しそうめんの準備をしました。昼食は、その流しそうめんでした。25mもの長さのコースを、そうめんが勢いよく流れていくと、子どもたちは歓声をあげながら箸ですくってお椀の中に移していました。地域で採れた野菜の料理や果物もたくさん並び、地域や保護者の方々のキャンプにかける熱意を感じました。午後のおもしろ理科実験では、遠藤久校長先生をはじめ学校職員が、4か所に分かれ、スライムやジャンボシャボン玉など楽しい実験を提供しました。夕食は、カレーライスでした。簡易かまどで、空き缶を使ってご飯を炊いたり、大鍋でカレーを作ったり、すべて子どもたちの手で行いました。とてもおいしくできました。続いて、校庭の中心に丸太を組み、キャンプファイヤーで楽しみました。その後、真っ暗な校舎内を歩き、きもだめしにチャレンジしました。その夜は、小学校の教室や校庭(テント)に、家族や友達と泊まりました。家では味わえない貴重な体験を数多くすることができました。この合同キャンプでは、子どもたちに様々な体験をさせて楽しい思い出をたくさんつくってあげたいという地域・家庭・学校の大人たちの強い気持ちを感じました。また、一方では、一つの行事のために、地域・家庭・学校がこれほど強く結びつき、心を一つにして皆一緒に協力し合うことができる、その連帯感の強さも素晴らしいと思いました。地域の小学校を、そして地域の子どもたちを、地域全体で支え、育てていこうとする地域の方々の強い思いに触れることができた、平林地区小中高合同キャンプでした。



学力向上フォローアップ事業

学びを深めよう



県内 4 市町教育委員会に委託されました。放課後や土曜日を活用し、児童生徒の補習的な学習への支援を通して、学ぶ楽しさやわかる喜びを実感することで、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るのが目的です。今年度の委託先は、**富士川町・南部町・甲州市・都留市**の 4 市町教育委員会です。



富士川町「そよ風教室」は、町内の小学校 3 年生以上と中学生（区域外就学者含む）が、南部町「なんふ未来塾」は、町内の 5 年生以上と中学生が参加対象です。参加料は無料です。今年度の事業は既にスタートし、受講者は持参した課題やテキストに取り組み、わからない箇所を講師から指導を受けています。講師はいずれも町内在住の教育経験豊富な教員OB等です。参加者は、「夏休みは、宿題を早く終わらせることができる。」「よく進むし、わからないときはすぐに聞くことができうれしい。」「家にいるとテレビを見てしまうけど、ここだと集中して勉強できる。」等々の感想を述べています。大変好評です。



地域の方々に支えられて集団登校



下山小 集団登校の様子

学校内外の巡回等を行う学校安全ボランティア（スクールガード）の方々が、児童生徒の登下校を見守ってくださっています。散歩や買い物の時間を、児童生徒の下校時刻に合わせている地域の方々も増えています。それぞれの町が、町ぐるみで取り組んでくださ



下山小 集団登校の様子

っているのです。まさに、地域住民が「子ども達の見守り隊」です。また、各町にはスクールガードリーダーが、児童生徒の安全を守ってくださっています。学校に対し、巡回のポイントや不審者への具体的な対応等についての情報提供や指導と評価を行うのもスクールガードリーダーです。



富士川町 川住浩土さん



富士川町 青柳優一さん



市川三郷町 砂田茂さん



身延町 伊藤達志さん



身延町 望月正一さん



南部町 深澤清茲さん



さらに、峡南地域には、スクールサポーターが 2 名います。**鵜沢警察署管内 秋山孝幸さん（写真左）**と**南部警察署管内 佐野守さん（写真右）**です。いずれも警察OBの方々に、地域の方々を見守っています。もちろん、このほかにも数多くのボランティアの方々に支えられ、子ども達は安全で楽しい学校生活を送ることができているのです。

